

■ はじめに

委員長 下川 滝美

紅葉の季節となりました。皆様お変わりありませんか？

東海北陸ブロック愛知大会からはじまり先日の多治見の建物使い心地調査など、皆さまのご協力のおかげで事業も順調に進んでいます。本当にありがとうございます。

最近、景観の調査も含め建物調査などでゆっくり町を歩く機会が多くなりました。普段急いで車でばかり移動していますが、たまにはこうやって一人でなく、皆でぶらぶらと歩くことに楽しさを感じています。古い建物を見るとついつい足が止まります。

山の木々も色つきはじめました。食べ歩きも楽しみです。いろんな通りを歩きたいですね。

☆:☆°.*:°☆。.:*.:☆:☆°.*:°:☆°.*:°☆。.:

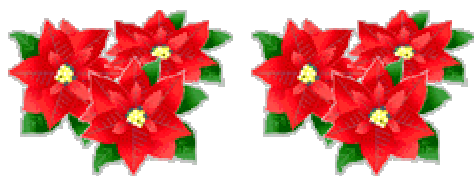
■ 20周年記念事業小委員会より(告知)

今年は女性委員会20周年の年です。小委員会で会を重ねて計画を練っています。

来年1月17日土曜日に行う予定です。皆さん今から予定を開けておいて下さいね。

テーマは仮称「岐阜を知ろう」ということで、昼食をはさんで計画をしています。

12月のはじめには案内をしたいと思っています。



■ 今回の記事

- はじめに
- 今後の予定・お知らせ
- 女性委員会・見学会報告
- 東海北陸ブロック会女性建築士協議会
平成20年度定例会議(前期愛知会議)報告
- 全国女性建築士連絡協議会報告
- ほっと・コーヒーブレイク
- 編集後記



■ 今後の予定・お知らせ

- ◆ 東海北陸女性建築士連絡協議会
日時:6月28日(土)
会場: 愛知県
- ◆ 全国女性建築士連絡協議会
日時:7月18日(金)・19日(土)
会場:東京 建築会館ホールほか
テーマ:地域と共生する住環境づくり～住みかえに学ぶ
- ◆ 第51回建築士全国大会徳島大会
日時:10月25日(土)
- ◆ 気楽にらくだ会(20周年記念事業)
日時:平成21年1月17日(土)

■ 第8回女性委員会 運営委員会に参加して

高野 栄子

第8回の運営委員会は5月16日(金)に昨年10月にオープンした、岐阜市のシティータワー43の最上階にあるレストラン“フォーティスリー”で行われました。

19年度最後の委員会は、15名が参加して、岐阜市の新名所で、おいしい食事とすばらしい眺めの中行いました。初めての方が数名参加されて、委員会の雰囲気も少しずつ変わってきました。新旧役員の方々の引き継ぎと、新年度の事業計画がまとまり、各事業の担当が決定しました。今年は女性委員会20周年記念の年にあたります。新委員長の元、新年度の活動が始まりました。



会議風景



デザートです♪

整っています。

始めに「シティータワー・アンキーノ」について説明をすると、医療施設の専門チームが24時間サポートしてくれる介護付き宿泊施設です。急な用事でご家族が外出される時等に介護が必要な方でも安心して宿泊出来るホテルのような場所であるとか・・・例えば、座ることが出来なかったお年寄りが、この「アンキーノ」を利用した事で短期間で生きる意欲を取り戻し、再び自分で歩く事が出来たとの体験談もあるようです。但し、保険が利かないので割高感がありますが、それを払ってでも価値のあるサービスを受けられるようです。

次に「デイサービス」に関しては、こちらは、サービスに訪れた人々の憩いの場である事、そして「大人の社交場」創りを目指しているとの事で、我々が見学に行った時もちょうどティータイムの時間で、喫茶コーナーには多くの方が集い、談笑していました。また、定期的にピアノやバイオリンのコンサートが開かれたり、和紙画教室が開かれたりとイベントが目白押しようです。

また、「保育施設 みっけのおうち」については、デイサービスに隣接しており、人生の始まりから「尊厳」が必要だという思いから新しい形の保育所を創設したようです。この時は、3歳位のお子様3名ほど、そして、そのお母様達が子育て勉強会ならぬ、各々の子育ての日々の体験を語り合っていました。その施設の床は、コルク床になっていて転んでも衝撃がやわらかくように、そして床暖にもなっていたためやわらかな暖かさも感じられて、ちょっとお子様を預けても安心して出掛けられる雰囲気がありました。

今回、介護施設を見学したと同時にシティータワー43の前の整備された遊歩道、並びに岐阜駅を目にし昔の暗いイメージを払拭する街になったと感じました。(まだ整備途中ですが、完成するのが楽しみです。)タワーから岐阜駅やアクティブ G に行くのも屋根があるので雨が降っても濡れる心配もありませんし、歩いて行くので身体にも良い、また、知り合いの方が、自分の住んでいる地域からこちらの分譲マンションに住まいを移した事で、近所の目を気にする事無く出掛けられ、本当に気楽に生活が出来るようになったとの話も聞きました。お年寄りになったからと言って、田舎にある老人ホームに行かなければならないというも今は時代錯誤であるかもしれないし、古い考えであるかもしれない、選択肢は色々あっても良いもの。また、介護を受ける時になった場合にも、家族だから全てを自宅でしなければならないというも限界があるのではないかと。すると、介護をする人と介護される側とがうまく共生出来る介護施設として、これは新しいモデルのなるのではないかと思います。今回見学させ

ていただい大変勉強になり、考える機会が持てました。ありがとうございました。

■ シティータワー43の介護施設を見学して

西村 憲絵

新緑薫る季節平成20年5月23日、我ら岐阜建築士会女性委員会は、昨年オープンした岐阜駅前のシティータワー43の43階で食事をしながらの委員会開催と3階の介護施設を見学しました。タワーに関して補足をする1～2階にショッピングモール、4階に岐阜放送本社、6～14階に高優賃(108戸)、15～42階に分譲マンション(243戸)を有する住宅・商業施設の複合タワーです。

3階フロアのテナントとしては、介護付き宿泊施設の「シティータワー・アンキーノ」、「デイサービスセンター」、「訪問介護ステーション」、「ヘルパーステーション」、「駅前保育 みっけのおうち」、「診療所」、「歯科・オーラルクリニック」等々、介護施設としては申し分のない医療施設が

■ 東海北陸ブロック会女性建築士協議会 平成19年度定例会議(後期富山会議)報告

下川 滝美

建築士会東海北陸ブロック会 女性建築士連絡協議会
平成20年度定例会議(前期愛知会議)
開催日 平成20年6月28日(土)13:00~20:00
開催場所 中部電力(株)名古屋支店5階会議室

中部電力(株)名古屋支店5階会議室で開会式が行われました。女性委員会としては8名。先輩の女性の方の参加が2名ありました。

今回のテーマは「GENKI=POWER OF ARCHI」、建築士会東海北陸ブロック会青年建築士協議会が創立30周年、同女性建築士協議会が創立20周年ということで愛知県が楽しい企画を考えての大会でした。

女性協議会はいつもの各県の事業計画の報告や本会の報告と審議事項を終えてから、協議事項へと進みました。今回は青年建築士協議会が小ブロック化をしたいということなど、協議内容が盛り沢山で活発に意見交換ができ、2時間20分があつという間に過ぎました。

16時からの分科会では、第一分科会は「～なごやウォークショップ 元気を探る～」5名参加。第二分科会は「～コーチングセミナー 心のスイッチをONにする～」4名参加。1時間30分の分科会でしたが、有意義な時間をすごすことができました。

その後会場は「Hard Rock Café NAGOYA」へ移動して18時から20時までを青年建築士協議会30周年・女性建築士協議会20周年ということで先輩方を交えての楽しい懇親会で幕を閉じました。

隣県であることから今回は8名という岐阜県としてはたくさんの方の人数で参加できたことがとても嬉しく思いました

■ 第1分科会～なごやウォークショップ 元気を探る ～ に参加して

森崎 麻充

小雨の中、私達のチーム10名は、名古屋駅周辺エリアの元気を探しに出かけました。

ミッドランドスクエアの展望台から見渡しますと、超高層ビルが次々と目に飛び込んできます。いきなり「元気な名古屋」です。

名鉄のアーケードから広小路通りへ納屋橋を渡り、懇親会場のハードロックカフェへと進むコースを歩きました。

セブン館の前で、ナナちゃん人形の衣装をチェックしながら、溢れ返る人の多さに名古屋の勢いを肌で感じました。そして、スパイラルタワーズを真近に見上げ、その迫力と建築技術に驚きました。途中、納屋橋まんじゅうでお土産タイムをとり、会場に到着しました。

チームの中で女性は、愛知県、福井県の方、私の3名でした。すぐに打ち解けて、地元の話などしながらの楽しい道中でした。同じ業界人同士は、心の垣根が早く取り払えると感じました。

今回のブロック会の参加は、女性委員になったばかりの私にとって、全てが初めてでドキドキでしたが、貴重な経験が出来、楽しい思い出となりました。参加する機会をいただきましたことに感謝しております。



コーチングセミナー風景

■ 第1分科会～コーチングセミナー 心のスイッチをONにする～に参加して

宇佐美 泉

「自分も周りも元気にするコーチング」という副題につられ、最近少々疲れ気味の自分に、元気を取り戻す何かきっかけになればと参加しました。

まず、コーチングとは何?の問いに、「自ら考え、自ら行動し、自ら結果を出すためのコミュニケーション技術のこと」と書いてあります。わかった様なわからない様な・・・それが私の最初の印象でした。コミュニケーションの第一歩は、人の話を聴くということでした。その聴き方も重要で、二人で組になり、お互いに話す側と聴く側になりながら、わざと無表情で相手の話を聴くパターンと、表情を入れてうなずいたり相づちを打って聴くパターンをやり、聴き方(傾聴)の大切さを学びました。そしてその話を認める、つまり承認する。そして問題点があれば質問する。その仕方も頭ごなしにするのではなく、相手が次に行動を起こし易い質問の仕方があるということをお聞きしました。

人の話を「傾聴」して、「承認」し、そして「質問」することを常に心掛けると、自分や回りの人が、自ら考え自ら行動するようになり、そうすればみんなが元気になるんですということでした。

■ ブロック事業委員会及び協議会の報告

下川滝美

各県の今年度の活動報告を順次行い、連合会女性委員会の報告、ブロック会議(本会)の報告を運営委員長西田さんがされました。審議事項として19年度の報告及び収支決算書承認の件、及び20年度の協議会役員、事業計画並びに収支予算案を審議し承認を得ました。

今回は協議事項が多く、12時30分からブロック事業委員会を事前に行い各県の意見を出してから、その続きを1時30分からの協議でまとめる形で行われました。

■ 協議事項

1. ブロック事業について

20年度は、青年の予定に合わせることになりました。

21年度の前期三重会議は女性だけの協議会となります。

21年度の後期福井会議は青年と同時開催となります。

2. ブロック事業の内容を<発表>から、<分科会担当>に変えるか?

各県が選択することで良いのはということになりました。

3. 平成20年度後期静岡会議について

三重県が発表の変わりに、青年委員会分科会を担当する。

* 開催県 静岡県青年委員会(補助 会議進行:石川県 + 議事録:愛知県)

三重県案は、各県に「建築の技の伝承」というテーマをパワーポイントで発表をしてもらい、三重県がまとめる形をとりたい。詳細は未定。

4. 平成21年度前期三重会議について

青年会議(小ブロック化)とは別に女性だけの会議とする場所日時は青年会議とは別の場所で行う予定。

5. 女性協議会として20周年記念事業は必要か?

今回の会議を20周年事業でよいのではないか。

記念事業という冠はなしで、三重会議は、初の女性だけの会議となるのでその時に何か諸先輩方をお誘いするような形をとってはどうかという意見が出されました。



■ 平成20年度

全国女性建築士連絡協議会報告

下川滝美

「地域と共生する住環境づくり」～住みかえに学ぶ～

開催日:平成20年7月18・19日

会場:東京 建築会館ホール

1日目は350名、2日目参加者も合わせると376名の参加者でした。13時30分から4県の活動報告がありました。

基調講演はテーマ「住みかえ」として移住・住みかえ支援機構代表理事である大垣尚司氏の講演でした。とても軽快なお話しぶりで現在の住まい方とこれからの住まい方を巧みな話術でつついその気になってしまうような錯覚をおこして聞き入ってしまいました。場面を変えて、大垣講師がコーディネーターになりパネリストとして住みかえに関する活動を支援している札幌・横浜・京都のNPO法人理事3名と鹿児島県垂水市の担当者によるパネルディスカッションが行われました。地域により、また住まいの形態により住みかえにも特徴があることがわかりました。

1日目は午後6時までと長く少々皆疲れ気味でホテルへと向かいました。驚く事はタクシーを待つことでした。タクシーは待っているものだと思っていたのですが、時間帯も帰宅時間に重なったせいか随分待たされました。

2日目は9時から各分科会に参加しました。11時45分から全体会で各分科会の報告がされました。詳細はとくしま大会でパネルにして報告がされるということです。



次回開催県の長野県

宮本連合会女性委員長によるアピール

午後からは河内さん案内による東京見物です。東京駅で荷物を預けて身軽になってから上野へ行きました。随分歩きまわりましたが、都会は緑をうまく使っており暑いのですが日陰もあり歴史的建造物をいくつか見て満足して帰って来ました。



■ 活動報告

◆「らいてうの家」長野県建築士会を聴いて

飯沼あい子

「元始女性は太陽であった」で始まる寄稿文を「青鞥」に発表した平塚らいてうの意思を継ぐ「平塚らいてうの会」が施主となり、生前に購入してあった長野県上田市真田町の四阿高原の土地（遺族より寄贈）に計画された記念館の設計監理に9名の女性が関わったという活動報告でした。

設計段階では施主側70名と設計者9名がワークショップでプランを決めていくという大変な作業を経て、やっと工事が始まりましたが、今度は地元の材木を使うことになりその調整に走り廻り終に竣工という流れでした。

施主側70名の意見をまとめるという難題にも増して設計監理を9名の女性建築士が関わるという大変さは十分に察しのつくことであり、よく最後まで頑張られたなあ（私だったら体力も気力も持たない）というのが正直な感想でした。竣工時の達成感で今までの苦勞が吹き飛んだという事でしょうか・・・

◆『女性建築士の集い2007』

大阪府女性分科会からの報告

河内美代子

これまでの活動を「～20年のあゆみ～」としてまとめ、1987年に始めた第1回の女性建築士の集いから2007年8月に開催した「女性建築士のつどい2007」（第1部：妹島和世氏を講師に迎えた講演会（参加者300名余）と第2部：会員限定で村野藤吾氏が設計した綿業会館の見学会）までの報告があった。研究会として、シルバーライフ研究会、木の文化と建築を考える会と健康住宅を考える会（2006年からは統合して住・空間らびに名称変更）、市民向け活動として「ユーザーセミナー」も1988年からと歴史を重ね、また行政への協力として「大阪市立住まい情報センター」でのセミナー等々、その活動の多彩さもさることながら皆さん一人ひとりが自己研鑽・仲間づくりの場として位置づけ、頑張っている姿に感銘を受けました。

◆景観測色ワークショップ・・・in 山口県下関市

山口県建築士会女性委員会活動報告

津川 文江

山口県下関市は 港湾都市である。隣県である福岡県北九州市とお互いの景観に配慮するため 関門景観条例が結ばれている。平成13年から3年間にわたり合同企画により「関門景観ウォッチング」が開催され参加協力してきた。その中で下関では、エリアごとに色彩誘導指針が設定されているが実態がどうなのかということで「測色ワークショップ」を開催した。

- 山口県各地で開催される「地域景観ワークショップ」に参加「まちの色を知ろう」に協力
- 「建築士の日の事業」の一環として 一般県民対象とした快適な空間づくりのための色彩計画講座を開催
- 下関市 JR 下関駅前を中心に測色

活動の成果・効果

何かしらのアクションを起こすことで地元住民の景観に対する意識啓発となった。

今後の課題

今回は、一度きりの測色であったが同じ地域で四季を通して調査が必要と思われる。また、このワークショップに参加することで自分の周りの地域景観を見直すきっかけにもなりうると思う。

■ 基調講演「住み替え」

河内美代子

「夫婦の定年後の住まい方」は女性に決定権があることが多い。しかしながらその肝心の女性は動かない。動きたがらないと言う話に多くの参加者が失笑。概ね3年くらいで夫が描いた理想に燃えた田舎暮らしに奥さんが見切りを付け、帰ってきてしまい、どうかすると離婚になるというのである。PTA のつながりや地域サークルで出来た仲間たちのいる今の場所がいいのである。こんな前置きから家という不動産資産の価値を再認識し、如何に平均余命を充実して過ごすには住まい・住み替えをどのようにしたら良いかと言う話があった。とにかく話術にすぐれた大学の先生。なんだか話を聞いているうちにその気にさせられてしまうような話し方で、皆でよくだまされる人がいるけど、こんなふうに話されるとだまされてしまうよね(!?)と話しました。

先生は有限責任中間法人 移住・住みかえ支援機構 (JTI) の代表理事を務めておられ、それは移住・住み替えを希望しているシニア (50 歳以上) のマイホームを借り上げ、それを子育て世代を中心に転貸し運用する非営利の法人だそうである。私も以前から岐阜県内でも高度成長期に開発した団地で高齢化が進み、夫婦だけもしくは単身で住んでいる人も多いので、そこを若い人に貸して高齢者は街中の便利なところに移り住むと良いと思っていたので興味深く聞いた。65 歳以上の方々の資産のうち、不動産資産が64%を占めるそうですが、住んだままでは資産とは言えず、住み替えなどで貸すことによって、初めて資産に変わるとの事。先生の話では売るより貸した方が高い価値を持つことが多く、その家賃収入を老後にふさわしい住まいのための資金に充てられるということです。そのためには耐震性能はもちろんのこと、安心して住める性能を持った住まいでなければならない。ただ、この制度はまだ始まったばかりでしかも東京圏でないと、マッチングなど難しいだろうと思った。やはり岐阜バージョンと言うか地方での形を考えないといけないだろう。



■ パネルディスカッション

津川 文江

基調講演の後、パネルディスカッションが行われました。

- 1・運上昌洋氏「NPO法人さっぽろ住まいプラットフォーム」
- 2・小渡佳代子氏「NPO法人横浜市まちづくりセンター」
- 3・松井薫氏「NPO法人京町家再生研究会」
- 4・美坂康人氏「鹿児島県垂水市役所企画課」

以上4氏により それぞれの活動報告を述べられました。

「さっぽろ住まいのプラットフォーム」では、住宅の住みかえ相談の窓口を行い コーディネーターが、ファイナンシャルプランナーと相談を実施し、建築判断を熟練建築士が相談員なり建築物に対する判断をするという三者のネットワークで活動しているそうです。

「NPO法人横浜市まちづくりセンター」の小渡氏は、子育ても終わり気力や経済力が充実している時こそ「住まいの健康診断」を行い住みかえを機会に自分らしい暮らしを享受する耐震・バリアフリーリフォームをすることを進めるとのことでした。「NPO法人京町家再生研究会」の松井氏からは、地域性と歴史に根ざした生活を考え直す必要があり、再度 自然と緩やかにつながりながら「ほどほどの快適さ」とは何かを考え生活を組立て直す必要があり、その自由に考えられる空間として京町家の醍醐味があるそうです。最近 町家が地震に対応する仕組みが備わっていることがわかってきたそうですが依然として 京町家は「既存不適格」建物です。しかし、住みかえに十分対応できるとそうです。

鹿児島県垂水市の美坂氏においては、人口 1 万 8 千人の市が、垂水市空き家バンクというホームページを作り移住希望者に対して広告をだしているそうです。

男性は地域との結びつきが少ないが、女性は地域とのつながりがあり、近所づきあいが住みかえにとって大事であるとのことでした。



■ A 分科会「住みかえ」

河内美代子

昨日のパネルディスカッションにパネリストとして参加された小渡佳代子さん(NPO 法人横浜市まちづくりセンター理事長)がリフォームも含めた住み替え実例を紹介。

「住み替える」と簡単そうに言うが引越しにはエネルギーが必要で結構大変。事例紹介では片付けようが無いほど物が溢れた台所の写真があり、片付けるのが大変そうという印象を誰もが持ち、年を重ねれば重ねるほど物が増えていき、大切なものを見極め不要なものを棄てる勇気と作業をしないと豊かな老後は始まらないし、無い。

事例はどちらかと言うと耐震改修とバリアフリー改修をして住み続けることにしたものが多く、必然、話題の中心は耐震

改修へ。耐震診断が有料の自治体も多く、診断が無料でも実際に耐震補強までする人は少ない。横浜では当初耐震補強に 600 万まで補助があったが現在は所得に応じて 150 万円まで。その部分だけを補強するのであればそれでも可能であるが、実際は仕上げが違ってしまったりするのそこだけでは済まず 400~500 万円くらいは必要。また、バリアフリー改修の補助金は耐震とは担当課が違うため無駄が多い。1 本化して耐震改修とバリアフリー化を同時に施工すれば無駄も無く補助金も生きるのに残念であるという発言があった。

横浜の場合はまた、空き家の有効活用と既存不適格建築を無くすという発想が背景にあり 50㎡以上の増築もすべて検査を実施しているとのこと。空き家対策として福祉施設的な活用も検討されるが法規制で苦慮している。空き家のまま放置しておくとも誰も手入れをせず、不良建築を増やすことになる。

建築士として何をしなければならぬか！

- ・住まいの健康診断
- ・バリアフリーのすすめ
- ・家の履歴書の保管
- ・家の使い方のアドバイス
- ・他業種とのネットワーク
- ・質の高い住宅を作る
- ・まちづくり・家づくり・暮らしづくりのアドバイス
- ・基準法が住み替えに対応していないのでアピールしていく

■ C 分科会「健康住宅と素材」

長尾 則子

今回、初めて全建女に参加させていただき、良い体験をさせていただきました。

皆様、どうも有難うございました。以下、報告します。

二日目、C分科会『健康住宅と素材』に参加しました。

ここでは、まず長野県建築士会の女性委員 9 名の協同設計で建てた「らいてうの家」の紹介と苦労した点、等について写真をみながら代表者から説明を受けました。

その後、全国から集まった約 30 名の女性委員がそれをもとに、環境や健康に配慮した住まいの取り組みの紹介など活発に意見交換をしました。皆さん熱心で時間が足りませんでした。

「らいてうの家」の一番苦労された点は、山に現に生えている木、杉や松を(寄附していただいたのはよかったのだが、半年後の見学会までのスケジュールが決まっていた、)使える材木に仕上げるまで短期間しかなく、(高周波乾燥にかけたり~いままでこんな無理なことはしたことがなくて)間に合わせるのに大変だったこと。

あと、建設費をすべて寄付でまかなうので、寄付金集めを手伝ったり、また、ちよど県施設の建設現場から出

た、はぶき材をもらいに行き足りない材にしたりしたそうです。

また、竣工後 1 年くらいは、木の建具が開けにくくて毎日苦情の電話が掛かり、しかし 2 年後には乾燥してだんだん使いやすいくなりわかってもらえてきたとの話もありました。

そこから、むく材を使ってほしいというお施主さんの要望はあるがその特性をわかっていない人が多くて苦情につながるので、施主に教育する必要性がある点は参加者全員一致でした。

「らいてうの家」の良い点は、苦労はしたが材料の現地調達で地産地消につながった点や、敷地の木を出来るだけ残し環境に配慮した点です。あと関わった 9 名のうち 5 名の方々に参加してみえましたが皆さん、いい顔をして見えました。

■ D分科会「建築物の再生活用」に参加して

飯沼あい子

建築物の再生活用の中で最も一般的なものが、住まいのリフォームである事から岡山県建築士会では、一般ユーザー向けにリフォームセミナーを 4 回に分けて行い好評を得た事。その後、冊子「リフォームの手引き」を作成し公共施設に配布したという活動報告がされました。

次に、特殊な事例ですが、熊本城の改修工事の経緯を熊本県建築士会会員で設計として関わった方よりの説明がありました。

発表後の意見交換会では、・施工者のレベルを知ってかわからないと失敗する・高齢者に対しては物を捨てさせるのに苦労するが、最終的には施主がこちらを信頼し満足しなければだめ・相談会をしても他業種(行政・法律・施工等)との連携がないので中途半端で終わってしまう・神戸市では「住まいネット」という機関が住まいに関する業種全てと連携できる組織がある等の意見が出ました。

以上が報告になりますが、協議会に参加して感じたことは、委員会活動に参加できる女性会員の多いところや予算が確保できること(体力と気力はもちろん必要です)は、まとまった活動ができますが、そうでないと難しいということでした。私たちもこの会に出た事で少しでもエネルギーを吸収できればと思いつつ帰ってきた次第です。

■ G 分科会「高齢社会」の報告

下川滝美

分科会趣旨

「住み慣れた我が家で快適に、安全に暮らしたい」

「まちに出て、人とのかわわりを大切にしたい」各地域での人々の暮らしや環境を踏まえ、それぞれの地域の特色をいかながら、高齢社会をより豊かなものにしていきたいと考えます。……

コメンテーターは 3 人の方でした。最初は高齢者住宅改造事例で 100 年以上住み続けている古民家の改修でした。不便なところだが住み続けたいための改修事例でした。今回はハードでなくソフト面を皆さんからご意見を頂きたいというもので意見の中には改修する時に耐震も考えているか、他の家族との住まい方はどうなのかという意見がでました。古民家は北船井型住宅と言われるもので私たちの地域の古民家と似た形をしていました。二人目は京都の修徳学区のまちづくりを通して高齢者が同じ地域で住みつけていきたい。そのために町づくりをしていくという発表でした。

最後の発表は福島県の「やさしいトイレマップふくしま」トイレマップの調査ということで興味深く聞きました。調査チェックシートやマップの利用の仕方など多くのヒントをもらってきました。

調査内容はどうしても欲張りになってしまうのですがマップの形はとてもシンプルなものですが。

行政との協働という点で調査内容を伝える場があるというのはとてもよいことだと思いました。

私たちの分科会では家を住みかえるということではなく、住み慣れた地域で快適に暮らすためにはどのようにしたらよいかという発表でした。

す。……



■ H分科会『集まって住む』の報告ですが、これは参加できなかったもので、最後の報告会の要点をお伝えします。

昨今の輸入住宅団地におけるコミュニティの形成から、家族のコミュニティ・地域のコミュニティ・老後のコミュニティ・地震など災害時における避難所のコミュニティなど、人が集まって住む場合、コミュニティの必要性＝ソフト面の重要性について、これからも継続して考えていくことが建築士の役割である。とのことでした。

また機会があれば参加したいです。ありがとうございました。 長尾則子

■ 平成 20 年度全国女性建築士連絡協議会
全国女性部会長(委員長)会議の報告

下川滝美

平成20年7月18日午前11時30分～13時
場所 東京機械会議室 1・2・3

報告事項

- ①建築士法改正、各種講習会及び住宅瑕疵担保履行法等について
- ②素材調査について
現在の状況は編集集中であり出版社を検討中の段階
- ③徳島大会のクイズ「知ってるつもり」
11時45分～12時45分の予定 素材の行方をテーマとしたクイズの予定

協議事項

- ①平成20年全国女性建築士連絡協議会アピール(案)について
- ②平成21年全国女性建築士連絡協議会の開催地、開催日時について
平成21年7月17日(金)18日(土)若里市民文化ホール
長野市生涯学習センター
小布施や善光寺など半日エキスカーションも予定されている。
長野県は青年女性委員会となっているため男性の委員長による開催となる。
- ③その他
23年に京都が開催県として立候補されました。

資料

女性建築士からのメッセージ 大阪市建築士会 500円
かわら版百話 山口県建築士会 女性委員会のあゆみ
宮城建築士会 女性委員会の取組「防災プログラム」による地域貢献活動
活動報告集 ～20年のあゆみ～ 大阪府建築士会 女性委員会
おもしろ建築塾 京都府建築士会
建築空間におけるユニバーサルデザイン 兵庫県建築士会 女性委員会ユニバーサルデザイン研究会

■ ほっとコーヒーブレイク

ローストビーフ



長瀬さんのレシピをご紹介します。
皆様の感想をお寄せください。

牛もも肉塊	400g	
塩・胡椒	各適量	
A 醤油	大3	
酢	大1	
味醂	大1	
ニンニク	1片	すり下ろす
生姜	1片	すり下ろす

- ① 牛肉は塩・胡椒を擦り込み、たこ糸で縛って形を整える。
- ② Aの材料を合わせてバットなどの容器に入れて混ぜておく。
- ③ フライパンをよく熱し①を入れて転がしながら焼き付ける。全体を4～5分焼いたら②のタレに漬ける。保存する場合はラップをかけて冷蔵庫へ入れる。
- ④ 食べる時に薄く切り分け薬味(万能ネギなど)を散らして食べる

■ 編集後記

平成 20 年度第 2 号をお届けします。予定を大分と遅れての発行となりましたことお詫びいたします。また皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。なお、編集参加問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員

(社)岐阜県建築士会

岐阜市司町 1 番地 岐阜総合庁舎 3 階

TEL 058-266-5786 FAX 058-266-6867

<http://homepage2.nifty.com/aba-gifu/>

E メールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しく願い致します

